

発刊にあたって

会誌「臨床心音図」の創刊号を皆様のお手元にお届けすることが出来ますのは、臨床心音図研究会々員皆様の熱心なご参加の賜であると、心から感謝しております。

医学の領域での最近の専門化、細分化は、多くの学会、研究会、それぞれの機関誌、会報、研究報告などを産み、より専門的に私達の知識を深かめるのに役立っていますが、不思議なことに、循環器病学のうち、心音図を中心とする心臓の機械的諸現象に関する研究会には定期的なものがなく、僅かに循環器学会総会の際の心音図に関する夜の談話会が、自由に参加することの出来る唯一のものでした。それが年一年と盛会になって行くのを見ていて、折角の勝れた意見や討論をその場限りのものにしないように、何方かが早く定期的な会合の世話をなさらないかと心待ちにしていました。ちょうど昨年春、神戸市での日循総会、夜の心音談話会の会場で、参加者諸兄のご意見を伺いましたところ、そのような会が出来れば喜んで参加するという方が多かったことに大いに力を得て、町井潔、坂本二哉の両先生と私の三人で先ず始めてみようということで、昭和45年10月17日、第1回臨床心音図研究会を開催し、その時の成果がこの雑誌になったわけです。

臨床心音図研究会の目的は、心音図法の一般臨床への普及と、レベルの向上を図ることにあり、会誌発行の趣旨は、会で発表された成績をそのまま文献として「臨床心音図」に収録し、日本の心音研究の時代的な変遷を纏めて後の世代に残して行こうというところにあります。

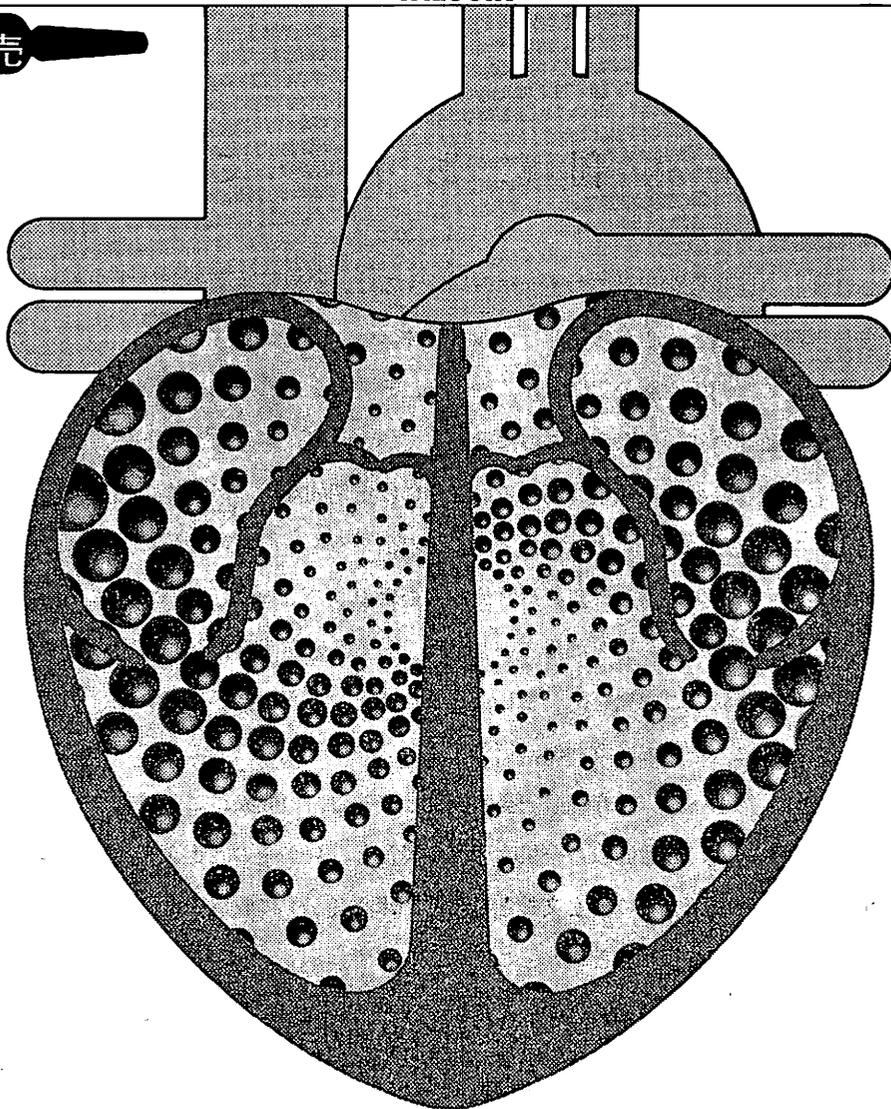
幸いなことに、会の運営、会誌の発行についてはフクダ電子（株）をはじめ各方面の協力が将来とも得られるという確約を得ましたので、このことを会員の皆様にお知らせして感謝の意を表わすとともに、さらにこの研究会の今後の発展を心から期待したいと思います。

昭和46年4月20日

古 田 昭 一

TALUSIN

タルーシン注
新発売



海葱から結晶体として単離した強心配糖体プロスシラリジン

軽症から重症に至る広範囲の心不全に
使いやすい、新しい強心配糖体タルーシン

1. 高い排泄率を示すので、蓄積性が低く、使いやすい。
2. 注射、内服、いずれでもすみやかに著明な心収縮力増強作用が得られる。
3. 房室刺激伝導抑制作用が軽度で、徐脈型にも使用できる。
4. 必要以上の徐脈化をもたらさない。
5. 本来の強心作用による利尿効果に、腎に直接はたらく利尿効果が加わり強力に浮腫を消退させる。

●適応症

心弁膜疾患（僧帽弁狭窄、僧帽弁閉鎖不全、僧帽弁狭窄兼閉鎖不全、大動脈弁疾患、連合弁膜症）、虚血性心疾患、高血圧性心疾患

●用量・用法

経口投与

通常、1日量3～6錠を2～3回に分けて投与する。維持量1日量2～4錠

非経口投与

症状により異なるが、通常、1回1mlを1日1～2回、または1回2mlを1日1回、20%ブドウ糖液または生理食塩液20mlと混じり、緩徐に静注する

●包装

錠(0.25mg) ① 105錠 630錠 1,260錠
注(0.125mg) ② 1ml×10管 1ml×50管
(0.25mg) ③ 2ml×10管 2ml×50管

●薬価基準

1錠 18.80円



TALUSIN

新強心配糖体

タルーシン[®]

プロスシラリジン



大日本製薬

大阪市東区道修町3-25

提携 クノールA-G. (西独)